

(様式 1-3)

矢吹町定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	子ども元気復活交付金公園遊具更新事業	事業番号	A-1-1
交付団体	矢吹町		事業実施主体	矢吹町	
総交付対象事業費	30,000 (千円)		全体事業費	30,000 (千円)	
事業概要					
<p>矢吹町内 3 公園（大池公園、ひまわり公園、新町公園）にある遊具、ブランコ、滑り台、ジャングルジム、太鼓はしご、遊動木、スプリング遊具を更新します。</p> <p>矢吹町では子育て世帯が子どもと一緒に外で遊べるよう町内各所の公園を整備し、利用促進を図ってききましたが、東日本大震災により遊具は破損し、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染で、公園を利用し遊ぶ子供が皆無となりました。</p> <p>第 5 次矢吹町まちづくり総合計画及び矢吹町復興計画では、支えあいによる地域コミュニティの再構築として「小規模公園づくり推進事業」を立ち上げ、放射能汚染された遊具の更新を実施しており、同時に矢吹町除染計画による除染も進めております。</p> <p>本事業により公園の遊具を更新することで、子ども達が屋外で運動しやすい環境を整備し、運動不足であった体力を向上させ、運動習慣の定着を目標とします。</p> <p>また、町内外の小学校や幼稚園と連携し、遠足等で公園の利用をしてもらうことで子ども達の公園遊具による運動機会をつくります。さらに、矢吹町の事業である夏の祭り（真夏の夜の鼓動）の際には、各地から多くの子ども達の参加が見込まれるため、町のプレリーダーであるジュニアリーダーによる遊具の使用法の演習を実施し、遊具による運動を身近に感じてもらい利用促進を図ります。遊具の講習会については夏と秋の年間 2 回実施します。</p> <p>※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください</p>					
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係					
<p>福島第一原発の原子力災害の脅威により矢吹町の人口は流出しており、発災前に 18,407 人（H22 年国勢調査）だった人口は 17,981 人（H25 年 4 月 1 日現在）と、約 2%の減（▲426 人）となりました。そのうち 141 人が町外及び県外へ避難した住民となっています。（H24 年 10 月現在）</p> <p>人口の流出による町全体への影響は深刻なものであり、家計消費支出の減少による町内商工産業の衰退や少子高齢化の加速、小中学校児童生徒数の減少等があげられ、町全体の復興・復旧の大きな妨げとなっています。</p> <p>原発事故後、子どもたちは屋外で運動する機会が減少しており、公園にて遊ぶ子供についてはほぼ皆無の状況となりました。町の都市部である矢吹地区でも、震災以前 11,812 人（H23 年 2 月末）であった人口が 11,505 人（H25 年 4 月末）へ減少しましたが、本事業による町内各地の主要公園の整備により、減少した 307 人以上の人口増加を目標として子育て世帯の定住化を促進していきます。本件 3 公園はすべて矢吹地区に所在しており、公営住宅等の集合住宅の多い中心市街地であるため、多くの住民の利用が見込まれます。また、更新後は町の広報誌やホームページ等による、更新した遊具の安全性の PR や遊具の講習会等のイベントの発信をして住民への周知徹底を図り、広く住民への利用を促進するとともに、保護者や利用者に対してアンケートを実施し、事業の効果検証をします。当該事業は H25 年度を事業期間としておりますが、早期着工を図り、子供が住みやすい定住環境の整備を実現していきます。</p> <p>※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。</p>					
関連する基幹事業					
事業番号					
事業名					

交付団体	
基幹事業との関連性	